

教職コンソーシアム通信

学びの架け橋



人にまっすぐ。
大阪教育大学

01 教師にまっすぐを開講

02 リレーエッセイ

03 加盟校出身学生の紹介

04 交流事業の紹介

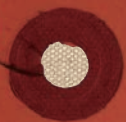
06 加盟校の取組紹介

07 大教大トピックス／編集後記

令和6年度教師にまっすぐを開講

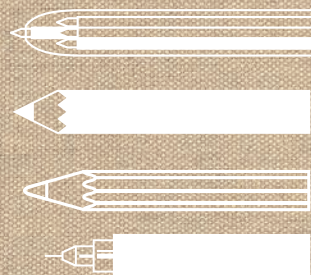
令和6年度教師にまっすぐを、7月21日(日)に天王寺キャンパスで開講しました。





RELAY ESSAY

リレーエッセイ



“平成版～でもしか先生”からの始まり

大阪府立槻の木高等学校 校長 青竹 二郎

“でもしか先生”……教員が不足していた第二次大戦終結から高度経済成長期（おおむね1950年代から1970年代）に教員の採用枠が急増し、容易に教職に就けた時代、他にやりたい仕事がないから「先生でもやろう」あるいは特別な技能がないから「先生にしかできない」などといった消極的な動機から教職に就いた、無気力で不活発な教員を揶揄した表現です。

1985年に採用された私は、時代も異なりますし、決して無気力や不活発ではありませんでしたが、教員になった動機・経緯では“でもしか先生”に近いものがありました。しかし、そのことでの自戒の念が教員としての成長に役立ったと思います。

小さい頃は、家の近くで、おたまじゃくし・かえる、ザリガニ、そしていろいろな昆虫を採集する子どもでしたが、小学校の学年が進むにつれ、興味は“化学分野”に移っていきました。中学生になると、将来、新薬や新素材を作ることを仕事にしたいと考えていました。高校では化学は誰にも負けないとの思いで取り組んだおかげで、それなりの成績をとることができ、大学は化学科に進みました。大学でも、化学に関する学びには大きな挫折はありませんでしたが、自身に研究者・技術者としての資質があるのかという不安を常に感じていました。4回生となり「導電性ガラス」をテーマに卒業研究に取り組みました。卒業研究は楽しく、次々にアイデアが浮かび、それなりに成果も出ていて、この頃が子どもの頃の憧れに最も近いものだったように思います。

研究室の教授からは大学院進学を強く勧められていたこともあり、調子に乗ったのか、院生限定の研究職の求人、無理を言ってチャレンジしました。自身の研究分野は無機化学、チャレンジした企業は有機化学の分野、ダメ元でしたが、面接で“分野が違うからこそ可能性がある……”などと広言したのがうけたのか、結果は院生を押し退け内定となりました。その後、研究室OBと連絡を取る中、企業研究者の厳しさを知り、急激な不安と軽率な行動の自責の念に苛まれ、結果、子どもの頃からの夢を断念してしまいました。教授からの叱責とともに、

大学院内部進学の可能性もなくなりました。

教員“しか”なくなったのです。

そこからは採用試験対策と卒業研究に真摯に取り組みました。教授にもその様子を認めていただいていたのか、採用試験がダメだった場合の講師の職も見つけていただいていたし、教員採用後も研究発表会にも参加させてもらっていました。

教員に採用された直後は、向いてなかったら、大学に戻ろうと“でもしか”が顔をのぞかせていましたが、多くの先輩教員からの助言により、教員のやりがいに気付き、気持ちを切り替え、教員を続けることができました。

教科指導では、教科書に記載されている実験も、ほとんど経験がありませんでしたが、先輩教員から実験室でできるものは可能な限り実験してみることを勧められ、実践したことで自信をもって指導できるようになりました。

学級経営では、先輩教員の取り組み方法をヒントに、ほぼすべての学級活動を座席と運動する班活動で取り組むこととし、そんな学級経営を自らも楽しんでいました。

部活動では、未経験のバドミントン部の顧問となりました。先輩教員に、生徒の練習後に、居残り特訓をしてもらい、技術指導もそれなりにできるようになり、翌年には主顧問になりました。その後、市民大会や教員大会に出場するなど自身の趣味にもなり、今でも、土日には、ノックを上げたり、部員と一緒に汗を流しています。

“平成版～でもしか先生”からの始まりでしたが、教員生活も40年となりました。



青竹 二郎 あおたけ じろう
大阪府立槻の木高等学校
校長

加盟校出身学生の紹介



やまなか とうこ
山中 塔子さん

教育協働学科 グローバル教育専攻 英語コミュニケーションコース 4回生
大阪府立三国丘高校 令和3年3月卒業



高校時代の思い出は

高校では吹奏楽部に所属し、SGH (Super Global High School) のプログラムにも参加していました。部活はほとんど毎日大変でしたが、仲間と助け合いながら日々練習に励んでいました。部活終わりに近くの商店街に行って、美味しいものを食べながら友人と話す時間がとても好きでした。

SGHでは、身の回りの課題や世界の問題について学び、課題解決のために何ができるのかを考えたり、ビジネスプランを立てたりしました。仲間と共に

切磋琢磨していた時間は青春そのものでした。授業の時間内では話し合いが終わり、近くのカフェで発表の準備や課題研究の話し合いをしたのもとても良い思い出です。今でも高校時代の友人と会うと、当時の話で盛り上がり

なぜ所属する専攻・学科・コースをめざしたのか？

「英語」と「子ども」について学べる大阪の国公立大学を探していましたが、この2つを両立できる大学が見つからず、どちらかを諦めようと思っていました。そんなときに会ったのが、このコースでした。教員以外の選択肢もあることや、専門的に「英語」と「子ども」について学べることを知り、受験を決めました。

コースの良いところ

英語コミュニケーションコースの良いところは、英語と教育の両方を専門的に学ぶことができることです。言語学的な視点や文学的な視点から英語を学ぶ授業もありますし、現代の教育について教員以外の視点から学ぶ授業もあります。少人数のコースなので、アットホームな雰囲気があるのも好きなおところです。

クラブ・サークルは何をやっていますか？または大学生活で頑張っていること、楽しいこと

私は、写真を媒体とした情報発信サークル「FILM」に所属しており、昨年度は代表の一人として活動しました。東日本大震災がきっかけとなって創設されたサークルで、毎年東北取材し、写真展を通してその様子を伝えています。

まつぎさ りょうま
松崎 涼真さん

学校教育教員養成課程 小中教育専攻 社会科教育コース 3回生
大阪府立北千里高校 令和4年3月卒業

高校時代の思い出は

私の高校時代の思い出は、部活動を筆頭に、クラスや文化祭などです。どれも、いい思い出です。

私は水泳部に所属していました。毎日朝練から始まり昼間は友達と他愛もない会話をして帰るといった日々でした。今思うと高校には勉強じゃなくて泳ぎに行っていたといってもいいですね(笑)。今でも高校の友達とよく遊んでいます。高校時代の友達と大学生になって会うのはなにか感慨深いものがあります。

なぜ所属する専攻・学科・コースをめざしたのか？

私は小学生のころから教師をめざしていました。しかし高校3年生になっても小学校、中学校、高等学校のどの先生になりたいかは決め切れていませんでした。そんな中、大阪教育大学に4年間ですべての免許を取得できるコースがあると知りました。ここで学んでいく過程で、どの道に進みたいかじっくり考えることのできる選択肢が用意されているのは、非常に魅力的でした。そのおかげで、実際に実習等で教育現場を見ながら自分のペースで進路を決めることができ充実しています。

コースの良いところ

私の所属しているコースは社会科の教員免許を取得する上での授業のバリエーションが豊富です。同じ公民の分野でも数ある授業の中から自分の興味のある授業を履修するという形です。また教師をめざす人の割合が非常に多く、その環境のおかげで教師になりたいというモチベーションが高いです。また追加で授業を受けることで小学校だけでなく中学校、高等学校の免許も取得できることも魅力です。

クラブ・サークルは何をやっていますか？

または大学生活で頑張っていること、楽しいこと

私はスキー部に所属しています。現在は3回生であり主将を務めさせてもらっています。冬には約1ヶ月という長期合宿をし、試合にも出場しています。そこでは一生の思い出が作れます。長期間、知らない土地で一つのことを打ち込む日々の充実感、中高生の頃と比にならないです。他大学との交流も盛んで、京阪神の大学はもちろん北陸の大学とも仲良くなれるのはスキーというスポーツの魅力のひとつだと思います。

昨年度も東北で取材し、写真展を開催しました。より多くの人に見てもらえるように、学内だけではなく、オンラインや近くの公共施設でも開催しました。また、活動を広める一環として、他の部活やサークルの発表会の撮影をすることもあります。輝いている瞬間を写真に収められた時はとても嬉しいです。

おすすめの受験勉強法

2次試験では英文解釈と自分の意見を述べる問題がよく出題されていたので、その2つに特に力を入れて対策していました。解答を高校の英語の先生に添削していただき、その都度知らなかった単語や表現を覚えていきました。英作や英文解釈は、自分で採点すると、基準が分からない場合や、自分のミスに気付くことができない場合があります。他の人に添削をお願いすることで、自分の弱点がより明確に見えてくるかもしれません。単語力や表現力はその後役に立つので、身に付けておくとも良いと思います。

大教大の良いところ

留学生と関わる機会がたくさんあるのが私が一番好きなおところです。大学に入学してから、世界中に友達を作ることができました。留学生のチューターや授業のサポーター、留学生と日本人学生と一緒に受ける授業など、様々な交流の場が設けられています。学生だけではなく、母国で教員をしている方も留学しているので、他国の教育現場について知ることもできます。私は昨年度、エルサルバドルの英語教員の方のチューターを担当しました。日本の英語教育との違いや海外の方から見た日本の特徴も知ることができ、とても貴重な経験になりました。

大学生生活を有意義に過ごすには

とにかく色々なことに挑戦してみてください。私はこれまでの大学生活で、オンライン留学やタイへの短期研修、G7貿易大臣会合での通訳ボランティアなど、様々なことに挑戦してきました。今年の夏から、交換留学に行っています。どの経験も大阪教育大学に入学したからこそ、できたものだと思います。大学生生活は長いようであっという間に過ぎていきます。一歩を踏み出すのは勇気がいることだと思いますが、少しでも興味があるのであれば、挑戦してみてください。何でも全力で取り組めば、きっと充実した大学生活になると思います。

います。大学生という環境が大きく変わる機会でも新しいことに挑戦するのは、新鮮で刺激の多い毎日です。

おすすめの受験勉強法

私がおすすする最短で志望校に合格する方法は「過去問を早い時期(高2の3月頃)から何回も解くこと」です。私が推奨するのは過去10年分前後のものです。

突然ですが、みなさんの好きなアーティストや俳優、アイドルを思い浮かべてみてください。その方々を知るためにSNSを見たりライブに行ったりしますよね。そこで、その方々のことを知ってファンになります。受験勉強も同じです。志望校を知るために最も手っ取り早い方法は過去問を解くことです。過去問にはその志望校が好む問題が多く載っています。他の受験生の誰よりも志望校のファンになりましょう。

大教大の良いところ

授業の先生方の中には元小中高の教師の方が多いこともあり、リアルな教育現場の状況を聞くことができます。教育業界は近年、長すぎる労働時間だったり、保護者対応、部活動の縮小であったりたくさんの話題が取り上げられています。この問題を1回生から現場に行き、教師目線で見ることは本学ならではの強みです。教師になってから理想と現実のギャップに悩むのは、大学生のころから勉強して、実践し、教師になるのとは大きく差が広がります。あと教育実習で初めて学校現場に行くわけではないので緊張もしにくいと思います。

大学生生活を有意義に過ごすには

大学生は失敗が許される身分です。何も行動しない4年間はあまりにももったいないです。日々の授業、アルバイト、部活動・サークル、友達、恋愛など大学生にはたくさん面白いことがあります。卒業したときに何か胸を張れるものをもって卒業しましょう。私自身もたくさん失敗し、先輩にもたくさん怒られていますが、何とかなっています。最後に私が大切にしている言葉を載せておきます。「諦めることは一番簡単で一番つまらないこと」大学生活を楽しもう!





教師をめざす高校生の育成プログラム 「教師にまっすぐ」を開講

教師をめざす高校生が、夢を大きく膨らませ、志をより確かなものにするためのプログラム「教師にまっすぐ」の第1回開講式を、7月21日(日)に天王寺キャンパスで行いました。受講生の府立高校教職コンソーシアム加盟校と大阪教育大学附属高等学校の1、2年生約150人は、12月までの全4回にわたり、さまざまなプログラムにチャレンジします。

開講式では大継章嘉学長補佐が本プログラムの概要について説明を行い、自身の新任教員時代の経験を交え、「皆さんが教師を一生の仕事として選択されることに間違いはないと思います。是非とも応援させてください」とメッセージを送りました。

講義は、最初に元府立高校校長の川端康之入試アドバイザーが「先生になるには」と題し、参加者に質問を投げかけながら、教員養成大学で学ぶことの意味や、大学生が学んでいる授業づくり・生徒指導などの紹介について説明しました。続いて、本学学校教育教員養成課程中等教育専攻英語教育コースの卒業生で4月から新任教員として附属平野中学校で勤務する坂本裕太郎先生が、自身の高校・大学時代の経験を交えつつ、高校生たちにアドバイスを行うとともに、教師の仕事を紹介し「やりがい」について語りました。

参加した高校生からは「教師になるために何が必要か」という教師の本質が学べました」「実際の教師1年目の先生にもお話が聞けて、とても貴重な体験になりました」「自分と同じように、教師になりたいと思っている人と実際に会って話すことで、教師になりたいという思いがよりいっそう大きくなりました」などの感想が寄せられました。



大継学長補佐の開講挨拶



講義の様子(スマートフォンを用いて、集約された意見を確認する受講生たち)



スタッフ紹介の様子(左から、大阪教育大学高度教職開発部門の瓜生彩子教授と学生スタッフ)

「教師にまっすぐ」の第2回を開講

「教師にまっすぐ」の第2回を、8月24日(土)に天王寺キャンパスで行いました。午前中は2年生約130人が6つの講座から自分の興味のある講座1つを選んで受講し、普段接する機会のない他校の生徒と協働して課題研究に挑戦しました。

講座	講師
これからの日本の英語教育について考えよう	山岡賢三 非常勤講師
子どもの人権について考えよう ～こども基本法施行を受けて～	高度教職開発部門 池上英明 特任教授
心と身体のつながりを学び、 体育を深めてみましょう	保健体育部門 神藤隆志 特任講師
プログラミング教材を使った教材研究について 考えてみよう	次世代教育部門 尾崎拓郎 准教授
課題研究の取り組み方 ～比較と対比で分かる探究のツボ～	理数情報部門 仲矢史雄 教授
キャッシュレス時代の消費者教育 ～合理的な金銭管理について考えよう～	高度教職開発部門 鈴木真由子 教授

午後からは1年生も加わり約150人の受講生が初等教育部門の岡部舞特任講師による講義「小論文作成について」と府立高校教職コンソーシアム代表幹事で大阪府立槻の木高等学校の青竹二郎校長による「高校教員39.4年の経験から」と題した特別講義を受講しました。

青竹校長の特別講義は、講師の自己紹介プロファイリングや三平方の定理を応用した牛乳パック片による正四面体づくり、10円玉(銅)と1円玉(アルミニウム)の電位差を使って作った11円電池を電源とした電子オルゴールの曲名当てなど、大学生スタッフのサポートのもと、グループワーク形式で行われました。

これらグループワークを通し、青竹校長が教科指導で大切にしてきた、初めての授業で内容に興味を持ってもらうための「導入の重要性」や生徒に学んで欲しい「内容の精選」について説明をしました。続いて、学級経営における自らの「いいクラス」の定義を示し、グループワークや役割分担を通して生徒に自己有用感を持ってもらう事の大切さを説明しました。その後、青竹校長が、部活動指導によって学習活動や学級活動では見えてこなかった生徒の違う面を発見できた経験を話し、39年以上に及ぶ教師生活を振り返りました。

参加した高校生からは、「『教師はブラックだ』と聞くことも多く、最近やっていけるのだろうか」と不安になることもあったのですが、39年以上続けている先生が自信を持って魅力的だと言ってくれたことがとても嬉しかったです」などの感想が寄せられました。



講義する青竹校長



課題研究でのグループワークの様子



記念撮影



交流事業の紹介

EXCHANGE
PROGRAMMES

～作文コンクール Leading to the Future2024～

未来に向かって ―教育・夢・感動―

教師をめざす高校生を対象に作文コンクール募集開始

大阪教育大学と府立高校教職コンソーシアムは、教職に興味や関心のある府立高校等の1、2年生を対象に、「未来に向かって ―教育・夢・感動―」をテーマとした作文を募集しました。このコンクールは、作文を書くことを通して、生徒が現在と未来の自分について

思いを巡らせ、教職への夢や覚悟をより確かなものとするを目的に実施するもので、9年目の取組です。

高校生たちは、「先生との関わりで感動したことと学んだこと」と「思い描く、これからの教育」をテーマに作文を書きます。

〈募集テーマ〉

「未来に向かって ―教育・夢・感動―」

具体的には「先生との関わりで感動したことと学んだこと、そしてこれからの教育」をテーマに記述します。

〈概要〉

1. 審査 校内選考(各高校等)を終え、大阪教育大学、府立高校教職コンソーシアム、大阪府教育委員会で構成する審査委員会において最終審査を行う予定です。
2. 表彰 最優秀賞1作品、優秀賞数作品、佳作数作品を予定しております。

次号の「学びの架け橋」(3月発行予定)において表彰作品を紹介する予定です。

作文コンクール
Leading to the Future

募集テーマ
未来に向かって
―教育・夢・感動―

作品募集
応募締切
2024
9/13

具体的には、下記の内容について記述してください。
「先生との関わりで感動したことと学んだこと、そしてこれからの教育」

府立高校教職コンソーシアム(位置校及びすべての府立高校、高専部、大阪教育大学附属高等学校、附属特別支援学校高等部の生徒のうち、教職に興味や関心のある生徒を対象に作文コンクールを実施いたします。後発作品については後発を行います。)
※応募資格は、コンクール開催日より前、府立高校教職コンソーシアム加盟校に在籍している高校1、2年生に限ります。

目的	審査	表彰	実施要項
① 作文を書くことを通して、生徒が現在と未来の自分について思いを巡らせ、教職への夢や覚悟をより確かなものとする。 ② すべて府立高校、高専部を対象として、次世代を多く育むの高校生・支援者としての思いや考えを共有し発信する。	校内審査、各学部の内選考、最終審査(大阪教育大学、府立高校教職コンソーシアム、大阪府教育委員会)による審査を行います。	最優秀賞1作品、優秀賞数作品、佳作数作品を予定しております。	募集期間：令和6年9月13日(土)まで(締切)2024年9月27日(土)まで 応募資格：大阪教育大学、府立高校教職コンソーシアム、大阪府教育委員会に加盟する府立高校、高専部、大阪教育大学附属高等学校、附属特別支援学校高等部の生徒のうち、教職に興味や関心のある生徒を対象とします。
対象 府立高校教職コンソーシアム加盟校及び府立高校、高専部、大阪教育大学附属高等学校、附属特別支援学校高等部の生徒で教職に興味や関心のある高校1、2年生	賞状 最優秀賞(1作品) 優秀賞(数作品) 佳作(数作品)	実施要項 募集期間：令和6年9月13日(土)まで(締切)2024年9月27日(土)まで 応募資格：大阪教育大学、府立高校教職コンソーシアム、大阪府教育委員会に加盟する府立高校、高専部、大阪教育大学附属高等学校、附属特別支援学校高等部の生徒のうち、教職に興味や関心のある生徒を対象とします。	賞状 最優秀賞(1作品) 優秀賞(数作品) 佳作(数作品)

主催 大阪教育大学 府立高校教職コンソーシアム

作文コンクール Leading to the Future2024募集ポスター



加盟校の取組紹介

MEMBER HIGH SCHOOLS' PROGRAMMES

桜和高校 ～桜和から始まるキミと大阪の未来～



桜和高校
公式キャラクター
「さくた」

桜和高校は、大阪市北区に唯一ある公立高校で、令和4年4月に扇町総合高校・南高校・西高校を統合して開校した新しい学校です。大阪府では初めてとなる教育文理学科を設置し「高い志を持ち、次世代の大阪を創生する人材の育成」を教育目標に、主体的に学ぶ力・コミュニケーション力・課題解決力・情報活用力・未来を切り拓く創造力の5つの力を身につけるための学習活動を展開しています。



また、桜和高校完成年度（1～3年生のすべての生徒が桜和高校生徒となる年度）である令和6年度には校訓「創志自律」が制定され、生徒一人ひとりが大きな夢を創造し、自らをコントロールできるような人になってほしいという想いが込められています。

桜和と授業～教育探究～

専門科目「教育探究」では、「教え・学び・育つ」という視点から、他者と協働し、自分と異なる意見を尊重することができることを目標にしています。また、「より良い学校、より良い世の中のためにはあなたは何ができるのか?」を追求していく科目です。



SMART ツーリズムのポップアップ

主な活動…①地域探究（周辺マップを作成しオープンスクール等で参加中学生に配布）、②STEAM教育（好き×万博：自分の「好き」を軸に15分間のワークショップ企画・運営）、③SMART ツーリズム（修学旅行を通して、旅行で世界をHAPPYにする方法の模索）など、内容は多岐にわたり、バラエティに富んだものとなっています。

桜和と連携～開かれた学校～

地域社会との連携も桜和高校の魅力の一つです。学校設定科目「教育ボランティア」（教職教育コース2年）では夏季休業等を利用し、小学校や図書館、博物館等教育関連機関にてボランティア活動を行います。「教育体験」（教職教育コース、国際文化コース3年）ではプチ教育実習を高校の段階で体験できます。これらを通して、教員としての資質能力の向上、大学へとつながる実践準備等を行っています。

また、プログラミングやアプリ作成等により、コンテストへの参加を通じて、外部へ積極的に生徒の「知」を広げ、学ぶ意欲の向上につながる取り組みも行っています。（理数情報コース）



教育ボランティアの様子

さらに大阪教育大学をはじめ、教育学部のある5大学との連携により身近なところに大学の存在を感じられるのも桜和高校の魅力の一つです。



教育体験の様子

桜和と国際交流～3校の姉妹校提携～

アメリカ1校、オーストラリア2校と姉妹校提携を締結しており、年間30名近くの生徒が海外留学を体験できる環境にあります。その他にも海外訪問団の受け入れ（R4イギリス、R5香港）、大阪観光局との企画やECCグローバル体験など国際交流における環境が充実しています。多様なプログラムにおいて異文化を実体験し、様々な価値観を共有するとともに、コミュニケーション能力を高める機会が豊富にあります。



オーストラリア交換留学
の記念撮影



ECCグローバル体験の様子

さいごに……

他にも、大阪府内の高校と連携しながら「探究 EXPO」と銘打ったイベントを主催したり、探究活動を通じた地域と連携（桜和×西日本書店）をしたりするなど、卒業後の進路実現に向けて、学校生活を校外へと広がります。教員志望の生徒が約半数近くいる桜和高校。教員チームも未来の「後輩」を育てるというマインドのもと、日々生徒と接しています。



探究 EXPO の様子

教員をみぞす生徒が我々を見つめるまなざしはいつも真剣そのもの。だからこそ我々教員側も、将来の先輩としての立ち居振る舞いを意識し、憧れられる教員であり続けたいと日々奮闘中です。



地域と連携
（桜和×西日本書店）



桜和高校ホームページ

令和6年度入学式を挙行

令和6年度入学式を4月5日(金)に、フェニーチェ堺で挙行し、夢を抱いた新生入生1,128名(学部生939名、大学院生167名、特別専攻科生22名)が、大教大生としての第一歩を踏み出しました。

式は、国歌・学園歌斉唱、入学者宣誓、学長式辞、記念演奏の順で行われました。入学者代表の一人として登壇した小西貴弘さんは岡本幾子学長の前に立ち、「大阪教育大学の目的、使命に鑑み、諸規則を守り、学業に励み、人格の陶冶に努めることを誓います」と声高らかに宣誓しました。

岡本学長は式辞で、「学校教育に情熱を持ち、教育職をめざす皆さんは、自分の目標が達成されることを信じて、これからの学業に打ち込んでいただきたいと思います。失敗を恐れず、人生の中で二度とめぐってこないこの貴重な時期を、自己実現と自己の確立の為に有効に過ごしていただくことを強く期待しています」と激励しました。

記念演奏では、ヨハネス・ブラームス作曲『大学祝典序曲』、ヨハン・シュトラウス1世作曲『ラデツキー行進曲』が披露されました。『ラデツキー行進曲』の演奏では、本学公式キャラクター「やまお」と「たまごどり」、本学とフレンドシップ協定を結んでいるJリーグ『セレッソ大阪』のチームキャラクター「ロビー」と「マダム・ロビーナ」がステージに登場し、会場は大いに盛り上がりました。



式辞を述べる岡本学長



宣誓する小西さん



記念演奏の様子



入学式後の新生入生たち

大教大を体験しよう! オープンキャンパス2024を開催

オープンキャンパス2024を、7月27日(土)にオンライン形式、28日(日)に対面形式で開催し、合わせて約3,000人が参加しました。

27日(土)はオンライン形式で、令和7年度に再編される教育協働学科についての説明会、課程・専攻・コース別の説明会、模擬授業、個別相談会など、双方向コミュニケーションのプログラムを実施しました。

28日(日)は対面形式で、課程・専攻・コース別の説明会や模擬授業のほか、入試アドバイザーによる個別相談会、学生によるキャンパスツアー、教員の研究紹介コーナー、フリートークコーナーを実施しました。また、クラブ公開練習と吹奏楽部による演奏、琉球鼓舞いちやりばちよーでーエイサー隊とYOSAKOIソーランサークル凜凜によるパフォーマンスも披露され、多くの高校生が足を運びました。

参加した高校生からは、「非常に有益な情報を得ることができて受験の参考になりました」「模擬授業では先生になりたいという同じ夢を持つ人が集まっていたとても楽しかったです」などの感想が寄せられました。



オープンキャンパスの様子

編集後記

この春に広報室に着任し、早くも数カ月が経過しました。最近では、コロナ禍からの回復も進み、社会全体が新しい生活様式に適應していく中で、大学でも徐々に対面での活動が再開し、少しずつ日常が戻りつつあることを実感しています。

特に8月に開催された「教師にまっすぐ」の第2回では、高校生たちが天王寺キャンパスに集まり、活気に満ちた交流ができたことが非常に印象的でした。昨年度まで学内のイベントはオンラインでの開催が続いていたため、改めて人と直接会って、同じ空間を共有することの重要性を再認識できました。

大阪教育大学では、さまざまな教育課題に対応できる人材を育成するため、令和7年度に教育協働学科の再編および北海道教育大学・福岡教育大学と共同での博士後期課程「共同学校教育学専攻」を設置します。詳細はQRコードをご覧ください。(K.N)

令和7年度教育協働学科の詳細についてはコチラ



令和7年度博士後期課程「共同学校教育学専攻」の詳細についてはコチラ



連携交流事業

大阪教育大学

教員・学生

高校生育成プログラム
「教師にまっすぐ」

出前授業
「大教大レッスン」

大阪教育大学キャンパスガイド
「大教大をまるごと
体験しよう！」

高校訪問
「大教大キューピッド」

作文コンクール
“Leading to the Future”

メールマガジン
「学びの架け橋」

生徒・教員

府立高校教職コンソーシアム

大阪教育大学のSNSアカウント



公式X(旧Twitter)

<https://twitter.com/OsakaKyoikuUniv>



公式Facebook

<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>



公式YouTube

<https://www.youtube.com/user/OKUChannel>



公式Instagram

<https://www.instagram.com/osakakyoikuuniv>



イベント情報やニュースなど、大教大の「今」を発信しています。ぜひフォローしてください。